

広島市中区医師会 第13回医療安全・院内感染対策管理研修会記録

医療安全・院内感染対策研修会参加記録

[研修会実施日] 平成26年5月23日(金)
[研修会場] 大手町平和ビル5F大会議室

[参加者]

[感想・意見など]

研修会報告(サマリー)

【1】アウトブレイクと新型インフルエンザ

アウトブレイクという言葉をよく耳にするようになった。その定義は、画一的ではないが「爆発的な感染拡大」と捉えると考えやすい。病院においては、院内感染がどの様に広がるのかを知った上で、アウトブレイクの意味を理解し、その徴候を早期発見するための体制を整備して、感染を拡大させないことが求められる。初期対応をいかに迅速かつ適切に実施するかを常に考えておく必要がある。

新型インフルエンザは、季節性インフルエンザの流行期が過ぎると忘れられる傾向にある。しかし、最近の海外動向をみると、いつ新型インフルエンザが国内で検出されても不思議ではない状況である。「その時」に慌てず対応できるような備えが望まれる。新型の感染予防は、基本的に季節性と変わるものではなく、正しい予防方法を再度確認して身につけることが基本である。組織や個人がどう動くかを示した対応マニュアルの整備も進めておくべきである。

【2】ちょっと気になる医療訴訟ーリスクマネジメントの視点から

医療従事者にとって、医療事故訴訟はとても気になるものの1つです。どのような事例が訴訟に至り、裁判所はどのような判断をしているかということを見て、リスクマネジメントについて一緒に考えてみたい。

紹介事例は、どの病院・診療所でも起こり得るようなものという視点で選ばれ、

- ①採血が関係した訴訟事件：社医がシャイ？事件（東京地裁H19. 5. 31）
- ②転倒が関係した訴訟事例：目を離したら、事件（東京地裁H14. 6. 28）
- ③個人情報保護が関係した訴訟事例：リークナース事件（福岡高裁H24. 7. 12）

訴訟事例は実際に起こったという点で、とても大きな意味がある。リスクマネジメントは、過去起こった失敗を繰り返さないということが基本の1つ。同じ失敗を繰り返さないために研修の積み重ねが、萎縮医療ではなく、細心（もしくは洗練？）医療につながる。

伝達講習記録

伝達講習実施日 平成 年 月 日 ()

[報告者]

[参加者]

[感想・意見など]